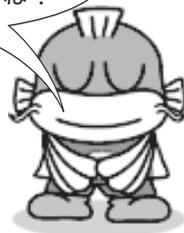




みんなで守ろう、琵琶湖 “りん”を含む家庭用合成洗剤は使用が禁止されています

りんの入っている洗剤は使わないでね！



「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」（琵琶湖条例）では、「りんを含む家庭用合成洗剤」の使用が定められています。しかし、昨今、「りんを含む家庭用合成洗剤」が、インターネット等で販売されているのが見受けられるようになってきています。そこで滋賀県では、県民の皆さんに、「今一度、『琵琶湖を守り、美し



りんを含まない洗剤の使い方
学ぶ様子（1980年当時）

◆環境課
☎ 587 - 6003
FAX 587 - 3834

「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」より抜粋

（使用の禁止等）

第17条 何人も、県内（琵琶湖に流入しない河川の流域その他の地域で規則で定める区域を除く。以下この章において同じ。）において、りんを含む家庭用合成洗剤を使用してはならない。

2 何人も、県内に住所または居所を有する者に対し、りんを含む家庭用合成洗剤を贈つてはならない。

（販売の禁止等）

第18条 物品の販売を業とする者その他いかなる名義をもつてするを問わず対価を得て行う物品の供給を業とする者（以下「販売業者等」という。）は、県内において、りんを含む家庭用合成洗剤を販売し、または供給してはならない。



い琵琶湖を次代に引き継ぐために制定されたこの琵琶湖条例の趣旨について考え、りんを含む家庭用合成洗剤を使用しないよう改めてお願いいたします」と呼び掛けています。

今から30年ほど前、琵琶湖では大規模な赤潮が発生する等の水質悪化が問題となりました。赤潮の原因の一つは、当時の家庭用合成洗剤に含まれていた「りん」という物質であったため、1980（昭和55）年7月1日に、「りんを含む家庭用合成洗剤」の使用・販売の禁止等が定められた琵琶湖条例が施行されま

した。そして、その翌年の1981（昭和56）年には7月1日を「びわ湖の日」と定め、昨年、滋賀県では「びわ湖の日30周年」を記念して、各種事業が行われました。

野洲市内では、琵琶湖を守る活動の多くは、市民団体や企業などにより行われていました。しかし、それぞれの家庭で、りんを含む家庭用合成洗剤を使用しないということも琵琶湖を守る活動のひとつです。30年前の赤潮発生を繰り返さないためにも、皆さんのご理解、ご協力をお願いします。

4月から旧の市指定ごみ袋は使用できません

ごみ集積所に出されても回収できませんので、ご注意ください。

また、新しい市指定ごみ袋等と代金相当分の交換を行っています。環境課または市民サービスセンターまで交換手続きをお願いします。



毎月第4土曜は 廃食油回収の日

4月28日(土) 午前10時～正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近
回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課☎ 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村☎ 586 - 1441

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(91)

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

【休館日】月曜日、5月1日(火) ※4月30日(振休)は開館

※4月から火曜日も開館します

◆野洲の古文書(10)「富波澤村の古文書—ムラの検地と年貢—」／4月22日(日)まで

◆写真展「平家物語と祇王伝説」／4月22日(日)まで

◆春期企画展「平家物語と祇王—妓王寺と祇王井—」／4月28日(土)～6月10日(日) 講座・展示解説…5月12日(土)午後2時～4時／講師…歴史民俗博物館学芸員

平家物語と祇王

『平家物語』は、平家一門の栄華と没落を描いた軍記物語で、鎌倉時代に成立したといわれます。この巻第一に「祇王」の段があり、白拍子祇王(妓王・義王)の悲哀の物語を綴っています。

都で評判の白拍子(舞姫)に祇王・祇女という姉妹がおり、祇王は平清盛の寵愛を受け、豊かな暮らしをしていました。それから3年後、若き白拍子の名手、佛御前が清盛邸へ参ったところ、清盛が帰したのを祇王のとりなしで召し返します。その舞を見た清

盛は、佛御前に心が移ってしまいます。清盛から退出を命じられた祇王は、

萌え出づるも 枯るるも同じ
野辺の草 いづれか秋に

あはではつべき

の歌一首を泣く泣く書き残し、清盛のもとを去ります。

その後、祇王は、妹の祇女、母刀自とともに出家し、嵯峨野に庵を結び仏門に入りました。やがて、佛御前も後を追って尼となり、4人は一緒に仏道に励み、往生を遂げたというお話です。

野洲には、この一話とともに祇王井の伝説が伝えられています。妓王寺(中北)に伝

わる1776(安永5)年の「妓王寺略縁起」によると、次のように記されます。

祇王は、近江国野洲郡江辺庄(現在の野洲市永原・中北・北付近)に生まれ、京に上り

白拍子となり、平清盛の寵愛を受けました。故郷の村人が

水不足に苦しんでいたのを思い、祇王が清盛に願い出て開

かれた用水が「祇王井」であるといわれます。祇王は出家後、

仏門にいそしみ、38歳で生涯を閉じますが、その恩恵をた

たえて建立された寺は「妓王寺」と名付けられました。詳細は諸説ありますが、こ

のような伝説が伝えられてき

ました。

妓王寺は、村人が祇王の遺

徳をしのび、菩提を弔うために建立したと伝えられています。

江辺庄のほぼ中央、中北の集落にある浄土宗の尼寺で、祇

王・祇女・刀自・佛御前の4人の木像を安置し、境内には

供養塔がまつられています。

祇王井は、野洲川を水源とする約三里(12km)の古くか

らの用水です。用水のことを「ユ」または「イ」といい、

祇王井は「大井」とも呼ばれてきました。野洲川の三上地

先に始まり、富波乙の生和神社裏で東西に分かれ、再び合

流して琵琶湖野田浦へ注いでいます。祇王井の水利にかか

わる村々は、江辺庄三か村の永原(上町・下町・江部)・

妓王寺(中北)



中北・北のほか、七か村を加えた十か村です。長い歴史を伝える用水であり、今も田畑を潤し、その流れは大切に守り続けられています。

春期企画展では、妓王寺や祇王井の資料を中心に紹介し、妓王寺にまつられる4人の木像を特別公開します。また、妓王寺は、地元や野洲市観光物産協会の協力により、今年の11月30日まで予約不要で拝観できるようになっています。皆さんもぜひ一度訪れてみてください。

(博物館学芸員 行俊勉)